

このことについて、次のとおり報告します。

1 建学の精神（ホームページ「フジコウの紹介」より）

キリスト教の価値観に基づき、頭（Head）と心（Heart）と手（Hands）を調和させながら育み、他者と共に生きることによって、自己実現をめざす人を育成する。

2 校訓（ホームページ「フジコウの紹介」より）

謙遜・忠実・潔白

3 教育目標

カトリックの「愛の精神」に基づき、一人ひとりを大切にして「心」を育てる。

4 重点項目

- (1) 生徒の安定確保と経営の健全化
- (2) 共学化の検証
- (3) 高い進路実現
- (4) 優れた教養と品格のある人材の育成
- (5) 心の教育と教育支援体制の充実
- (6) カトリック校教職員としての意識と資質の向上
- (7) カトリック教会との連携
- (8) 危機管理体制の整備
- (9) 地域との連携と支援

5 評価方法

評価方法は、次のとおり4段階とする。

A 十分に達成されている 3.5～	B おおむね達成されている 3.0～
C 取り組まれているが成果が不十分である 2.0～	D 取り組みが不十分である 1.0～

4 自己評価結果

分野	評価項目	達成状況	年度ごとの推移		自己評価
					改善の方策
建学の精神・教育目標等	1 建学の精神と校訓は、今も引き継がれている。	B	23	3.1	【自己評価】 ・建学の精神、校訓は適切に引き継がれている。 ・保護者や地域のニーズ等を踏まえた教育目標が設定され、教育活動に反映されている。 【改善の方策】 ・教育目標を実現するという意識を高く持ち、教育課程の不断の見直しに取り組む必要がある。
			22	3.1	
			21	3.0	
	2 本校の教育目標は、生徒の実態、保護者・地域の要望を踏まえたものになっている。	B	23	3.1	
			22	3.0	
			21	3.1	
3 「学校教育目標を具現化する」という意識の下で日常の教育活動が行われている。	C	23	2.9		
		22	2.9		
		21	2.8		
4 学校教育目標に直結した教育課程を編成している。	C	23	2.9		
		22	3.0		
		21	2.9		

教育課程・学習指導	5	生徒の実態に対応した教育課程になっている。	B	23	3.1	【自己評価】 ・教育課程が生徒の実態に対応したものに なっている。 ・学力向上につながる指導方法として、十分 ではないとの回答がみられる。	
				22	2.8		
				21	2.7		
	6	生徒の実態に即し、学力が向上するような教科指導をしている。	C	23	2.9		
				22	3.0		
				21	2.8		
	7	生徒の関心や意欲を高める授業や教科指導の工夫がなされている。	C	23	2.8		
				22	2.9		
				21	2.8		
8	教科指導において、学年や教科部会等の連携・協力が行われている。	C	23	2.7	【改善の方策】 ・コロナ禍を経て学力、学習意欲が低下して いる現状がある。学ぶよこびを伝え、向上 心を高められる指導方法をさらに模索する必 要がある。		
			22	2.8			
			21	2.8			
9	評価基準・評価方法は生徒の学習状況を適切・客観的に評価するものになっている。	C	23	2.9			
			22	3.0			
			21	2.9			
進路指導	10	生徒の適性や希望を踏まえた適切な進路指導が行われている。	B	23		3.0	【自己評価】 ・進路指導については概ね適切に取り組ま れている。 ・情報や資料の効果的活用については十 分ではない。
				22		2.8	
				21		3.0	
	11	進路に関する情報や資料が効果的に活用され、全校的な共通理解・協力が図られている。	C	23	2.7	【改善の方策】 ・自分で調べるよう促すだけでは進路が決ま らない生徒がいる現状がある。分掌と学年 の連携を深め、指導の充実をさらに図る必 要がある。	
				22	3.2		
				21	2.9		
12	学年毎に系統的・計画的な進路指導が行われている。	C	23	2.9			
			22	2.9			
			21	2.8			
生徒指導	13	H R 活動が生徒を健全な社会人として育成するよう行われている。	C	23	2.9	【自己評価】 ・不登校傾向のある生徒への対応、教育相 談活動及び部活動については適切に取り組 まれている。 ・挨拶や基本的な生活習慣、規範意識の高 揚について及び校内の協同体制については 取り組みはあるが十分ではない。	
				22	2.6		
				21	2.8		
	14	挨拶や身だしなみ指導により基本的な生活習慣の確立、規範意識の高揚を図っている。	C	23	2.8		
				22	2.8		
				21	2.7		
	15	生徒会活動を通して自主独立の精神を養うとともに北見藤の生徒としての自覚や連帯感を育てている。	C	23	2.8		
				22	2.8		
				21	2.7		
	16	生徒会行事のねらいを全教職員が理解し、積極的に生徒の活動に関わっている。	C	23	2.6		
22				2.4			
21				2.7			
17	生徒指導に関して教職員間の共通理解や協力が図られている。	C	23	2.7			
			22	3.0			
			21	2.5			
18	心のふれあいを大切にし、いじめのサインや生徒の悩みの相談に積極的に対応している。	B	23	3.1	【改善の方策】 ・教員ひとりひとりの指導に傾斜があれば指 導の効果は薄てしまう。このことから、分掌と 担任、教科等が共通の理解をも持ち指導に 臨む、という原則を今一度踏まえる必要があ る。		
			22	3.1			
			21	2.9			
19	不登校などの生徒の変化に適切に対応している。	B	23	3.1			
			22	3.1			
			21	3.2			
20	部（局）活動、各種の対外的な活動等が活発に行われている。	B	23	3.4			
			22	3.3			
			21	3.1			
21	H R 担任と教科担任、部活動顧問が適宜連携し生徒指導を進めている。	C	23	2.9			
			22	2.8			
			21	2.8			

学校運営	22	担任と副担任の連携の下、学年が組織的に運営されている。	C	23	2.8	【自己評価】 ・学校運営や研修については概ね良好な達成状況であるが、「危機管理対応」については十分ではない。 【改善の方策】 ・社会が求めるコンプライアンスと教職員の危機意識の間に乖離がある可能性がある。研修等を通じて「現状では十分ではない」、と意識を高く持ち、職場全体で危機感を共有する必要がある。
				22	2.9	
				21	3.0	
	23	各分掌は、必要に応じて相互に連携を図りながら課題解決に取り組んでいる。	C	23	2.9	
				22	3.0	
				21	2.8	
	24	前年度の反省に基づき、各分掌や委員会等の活動計画が次年度にの反省を生かされている。	C	23	2.8	
				22	2.9	
				21	2.8	
	25	限られた時間の中で研修（全体、教科、個人等）が積極的に進められている。	C	23	2.8	
				22	2.6	
				21	2.9	
	26	危機管理意識を高く持ち、不測の事態に適切かつ組織的に対応している。	C	23	2.8	
				22	3.1	
				21	2.7	
保護者・地域との連携	27	生徒指導について、家庭との連携や関係機関との連携が図られている。	B	23	3.1	【自己評価】 ・コロナの5類移行により、PTA活動及び学校と家庭との連携がコロナ禍以前の活発さを取り戻しつつある。 【改善の方策】 ・生徒指導、進路指導において家庭との個別的な連携は図られているが、学校の方針など大きな「絵」が共有されるよう、適切な情報発信に努める必要がある。
				22	2.6	
				21	2.9	
	28	進路指導について、保護者の理解、関係機関との連携が図られている。	B	23	3.1	
				22	3.0	
				21	3.1	
	29	学校の方針や活動が保護者・地域に知らされ、理解されている。	C	23	2.9	
				22	3.1	
				21	2.8	
	30	生徒、保護者、地域社会の期待に応えられる学校づくりに取り組んでいる。	C	23	2.9	
				22	2.8	
				21	2.9	
31	PTA活動が充実した活動になるよう努めている。	C	23	2.9		
			22	2.9		
			21	2.9		
32	家庭訪問、懇談、各種通信等により家庭との連携が図られ、協力が得られている。	C	23	2.9		
			22	2.8		
			21	2.9		
教育環境整備	33	校内の安全確保のため、施設設備の維持・管理の取組が適切に行われている。	B	23	3.1	【自己評価】 ・校内環境の維持・向上については、昨年に引き続き適切に取り組まれている。 【改善の方策】 ・教材機器を丁寧に扱い、管理を徹底するなど、取り組みを工夫して耐用年数を延ばしていく。
				22	2.9	
				21	3.0	
	34	教材器具をはじめ、各種備品の整備・保管が適切に行われている。	C	23	2.9	
				22	2.8	
				21	2.7	
35	本校には、仕事の事を含め管理職、同僚教職員に相談できる環境がある。	C	23	2.9		
			22	2.7		
			21	2.7		
総合評価	総合的な評価についてあてはまるものを選んでください。	C	23	2.9		
			22	2.7		
			21	2.9		

【自己評価】

・コロナウイルスが5類に移行し、コロナ禍以前の勢いが教育活動に戻った年となった。部活動においては昨年に引き続き全国・全道大会に進出する生徒が出るなど、予算を圧迫する勢いがみられた。
・一方で学力・学習意欲が低下した生徒、対人コミュニケーションに抵抗を感じる生徒が増加した。

【改善の方策】

・今後は各項目でまとめた改善の方策を具体化し、アフターコロナに適した教育課程を通して教育目標を目指す必要がある。
・「働き方改革」、「探究の充実」、「授業及び評価の改善」、「部活動改革」など、新しい課題にも引き続き取り組んでいく。

2023年度 北見藤高等学校学校評価（学校関係者評価）報告書

- 1 実施時期 : 2024年2月27日（水）～3月8日（金）
- 2 対象者 : 学校関係者 128名
- 3 実施内容

本校がまとめた2023年度学校評価「自己評価」が妥当かどうかを次の4段階により評価していただいた。

- 4 = 「上まわる」・・・期待を上まわっていると思う。
 3 = 「おおむね」・・・概ね適切な評価だと思う。
 2 = 「不十分」・・・物足りなく不十分な達成状況だと思う。
 1 = 「見直し」・・・計画・取組の見直しが必要と思う。

4 結果

	Q1. 「建学の精神・教育目標」の結果に対する評価	Q2. 「学習指導」の結果に対する評価	Q3. 「進路指導」の結果に対する評価	Q4. 「生徒指導」の結果に対する評価
評価結果	3.0	3.0	2.9	2.7
自己評価	3.0	2.9	2.9	2.9
増減	0.0	0.1	0.0	▲ 0.2
	Q5. 「学校運営」の結果に対する評価	Q6. 「家庭との連携」の結果に対する評価	Q7. 「環境整備」の結果に対する評価	Q8. 「総合」の結果に対する評価
評価結果	3.0	3.0	3.1	3.0
自己評価	2.8	3.0	3.0	2.9
増減	0.2	0.0	0.1	0.1

○2023年度 北見藤高等学校 第三者評価

評価者 4名 内訳 : 本校支援組織代表

同窓会役員、教員OB 等

※ 昨年度の評価項目10項目を8項目に整理しました。「学校運営」及び「環境整備」については、新たに設定したので昨年度の数値は空欄としました。

評価項目		評価結果	達成状況
		(昨年度)	
Q1	「建学の精神・教育目標」の結果に対する評価	3.25	B
		3.00	
		0.25	
Q2	「学習指導」の結果に対する評価	3.00	B
		3.25	
		▲ 0.25	
Q3	「進路指導」の結果に対する評価	3.00	B
		3.25	
		▲ 0.25	
Q4	「生徒指導」の結果に対する評価	2.50	C
		2.75	
		▲ 0.25	
Q5	「学校運営」の結果に対する評価	2.75	C
Q6	「家庭との連携」の結果に対する評価	3.25	B
		2.50	
		0.75	
Q7	「環境整備」の結果に対する評価	3.00	B
Q8	「総合」の結果に対する評価	3.25	B
		3.00	
		0.25	
<p>意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体としては、少子化や学校選択の競争の影響を受けながらも独自の魅力を発信し続けている印象がある。 今後さらに北見藤高校の魅力を対外的に発信できるよう期待します。 ・ 今後は、コース制変更の成果が目される。授業、進路、探究等の取り組みの充実が図られるよう期待します。 ・ また、コミュニケーションに課題を抱える生徒が増えていることがわかった。彼らと保護者を支援する教職員の重責とストレスは大きいと察する。チーム力と管理職による助言・配慮で教職員の適切なワークライフ・バランスが維持されるよう期待します。 ・ 取り組みの方向性は間違っていないので、自信を持って取組を進めて欲しい。 			